2023.6

しが 県博協だより

第35号　　滋賀県博物館協議会

しが県博協だより第35号は、昨年、県博協創立40周年記念事業として行った鼎談について、また、昨年度開催した研修事業「かわる・かかわるミュージアム　地域と多様性」（情報交換会）を掲載いたします。

滋賀県博物館協議会創立40周年記念事業「鼎談」について

滋賀県博物館協議会記念事業委員会では、県内博物館誕生黎明期からご活躍いただいております、木村至宏先生・石丸正運先生をＭＩＨＯ ＭＵＳＥＵＭにお迎えして、協議会設立40周年記念 鼎談「滋賀県博物館協議会の過去・現在・未来を語る」（令和4年8月5日）を開催しました。

木村先生は大津市史編さん事業を始め、県内の市・町・村史編さん事業の顧問等を多くされ、また大津市歴史博物館の開館も手掛けられた文化史学者です。

一方、石丸先生は滋賀県立琵琶湖文化館・近代美術館・彦根城博物館等で館長を務められ、幾多の美術展覧会を開催された美術史家です。

このお二人と本会会長をまじえ、県博協の「過去・現在・未来」を鼎談していただき収録できたことは、県博協としての大切な記録財産であります。会員等を含め多くの方と共有できる喜びを実感しております。

（記念事業委員・高島歴史民俗資料館　白井忠雄）

鼎談の内容は、動画等でご覧いただけます。

滋賀県博物館協議会ホームページ内のリンクバナーから、また、サンライズ出版株式会社のホームページからは、情報誌Duet143号の特集記事として読む事ができます。

動画へ

Duet 143号

記念鼎談のようす

（撮影：辻村耕司氏　画像提供：サンライズ出版）

左から八杉淳会長、木村至宏氏、石丸正運氏

（令和4年8月5日、MIHO MUSEUM 南館レクチャーホールにて）

令和４年度 研修事業実施報告

情報交換会
「かわる・かかわるミュージアム
地域と多様性」

講師　保坂健二朗氏
（滋賀県立美術館ディレクター）
日時　令和4年（2022年）10月13日(木)
13：30～ 16：30
会場　滋賀県立美術館
参加　28名（うち事務局2人、研修委員7名）

開催趣旨

今年度の研修事業は、コロナ禍が収束しきれていない状況を踏まえ、館内見学会と情報交換会を融合させた研修を１回開催することとし、令和３年(2021年) ６月に、館名を「滋賀県立近代美術館」から改めてリニューアルオープンした「滋賀県立美術館」で開催した。同館は令和３年１月１日に就任されたディレクター(館長)の保坂氏のもと、新たな博物館・美術館のミッションを掲げ、館内にさまざまな工夫を施した改修を行うとともに、新たな事業を展開している。今回の研修は、このような県立美術館の取り組みを伺った上で館内を見学し、会員各館の運営に活かせるヒントを得るとともに、これから目指すべき博物館・美術館の方向性について意見を交わす場とした。

講演概要（保坂健二朗氏）

滋賀県立近代美術館は昭和59年（1984年）に開館し、初代館長は上原恵美氏。自分が13代目となる。平成27年（2015年）３月にプロポーザルでSANAAが新生美術館（仮称）の設計者に選ばれ基本設計ついで実施設計に着手。平成29年(2017年)４月からは改修・増築工事のため休館したが、同年８月に施工会社を決める入札が不落となる。その後も調整に努力したが、翌年８月に「すべてを包含した新生美術館プロジェクト」を一旦立ち止まらせることを発表。その後の方向性を対外的に広く周知しないまま展示室とウェルカムゾーンの改修を進め、令和３年６月27日にリニューアルオープンした。自分が館長に就任して以後、県がこれまでのプロセスをきちんと説明していないことを痛感したこともあり、わかりやすいコンセプトを掲げることを考えた。それが、後述する「リビングルームとしての美術館」となる。また、リニューアルに掲げた「かわる・かかわるミュージアム」というコンセプトは、エントランス改修に関わった会社の示した考え方で、これからはミュージアムも「かわる・かかわる」ようになるので、来館者もまた変わり、関わって欲しい、との思いが込められている。開館後、11月10日には、全国で41番目の文化観光拠点施設として文化庁に認定された。

館のミッションは「CALL」、すなわちCreation（創造）・Ask（呼びかけ）・Local（地域）・Learning（学び）の四本柱で、意図的に「アート（Art)」の言葉を使わなかった。美術館が「敷居が高い」と思われる原因と考えたためで、アートになる以前の創造の現場まで下りていくという意味を込めている。このミッションに基づいて力を入れているプロジェクトが、①滋賀の多様な美を発信するプラットフォーム機能を担う、②大学や企業をはじめとする各機関との連携を促進する、③文化観光拠点を担う、である。

講演する保坂氏

具体的な取り組みとしては、３つのテーマが挙げられる。

最初のテーマが、「公園の中のリビングルーム」である。より多くの幅広い人々に来館してもらうためには、「展覧会を見に行く」ではなく、「美術館に行く」という気持ちを持ってもらうことが必要。周辺の公園を散策しながら、ふと立ち寄り寛いでもらえるリビングルーム的空間にする。公園の公共性の延長線上に位置づける感覚。そのために、人それぞれの好みに対応するさまざまなデザインの椅子を置き、エントランス部分の飲食持ち込みも可能とする。カフェ＆ショップの事業者が借りるスペースは最小限にしている。これは専有面積を減らすことで賃料を下げる点で、事業者にもメリットがある。美術館内の飲食についてはIPMの観点では忌避されるが、館内の分棟構造を逆に利用して可能な場所とそうでない場所を区切った。かつてレストランであった２階のスペースは、上がるのが億劫と人が来なくなった。人が来づらい場所なら逆に騒いでも問題ないという考えから、キッズスペースに改良した。元厨房のエリアは水道などが通っていたので、ミルクを作ったりおむつを替えたりできるようにしている。

このように足を向けやすくした上で、どうしたら展覧会を見ようと思ってもらえるのかを考えた。収蔵品（コレクション）展が無料化できればと思案したが、入場料金に関する県の条例があり、その改正は、県立他館にも影響するため難しい。そこで考えついたのが、計画中だった、美術館に対するサポーター（寄附金）制度の活用であった。企業から寄附金を募り、それで相殺できる日数を無料化するという仕組みを考えた。県内の企業に呼びかけたところ「木の家専門店　谷口工務店」の賛同を得られ、毎週日曜日を収蔵品展無料にできている（フリーサンデー)。一度でも博物館に来てもらえれば、また来ようと思ってもらえる。実際に日曜日の入場者数は３～４倍に増えた。寄附した企業への特典は、企業研修で美術館を利用できること（講義や対話型鑑賞等)、企業の作品購入の際に簡単なアドバイスを受

けられること、美術館のスペース（ギャラリー等）を展示その他に利用出来ること、などがある。今後の課題は、新たなサポーターの獲得、運用スタッフの確保、別の持続的関係の構築などである。

第２のテーマは、「アートの相対化」。県立美術館では平成28年（2016年）からアール・ブリュットの作品収集をし、現在158点を収蔵している。その主な作り手は、精神疾患患者・知的障がい者・占い師・霊媒師・降霊術者・独居老人などで、作品は美術史で評価することが難しい。しかし自分はむしろ、評価が定まっていないものを調査し評価することも美術館の行うべき行為と考えるので、県美ではアール・ブリュットを積極的に見せるべきである。

第３のテーマは、「地域や外部機関との連携」である。県の施設として、「美の魅力発信プラン」のネットワークを今年度から動かしていく。また、入口右手奥の「ラボ」のスペースは、企業や大学を含む外部機関との連携の場と考えている。あえて年間のスケジュールを定めず、提案があればさまざまな文化資源を紹介する場にしたい。現在、経費は利用者持ちだが、館も定期的に経費負担を検討する方向である。地域や外部機関との連携の事例として、石川県小松と富山県高岡と福井県越前で行われた工芸と現代アートの展示企画「GO FOR KOGEI」が参考になる。小松と高岡を平日に訪れたが、文化財を持つ寺社を会場として、現代作家計17人の作品を展示。3会場共通パスポート2,000円で、現地のサインにはほとんどお金をかけず、各会場３人程度のスタッフで動かしていた。滋賀県も、美術館・博物館と寺社が協働すれば、同種のイベントが開催できるのではないか、とのことであった。

講演後、質疑応答の時間が取られた。

「ラボ」の利用については、主催はあくまで美術館とのことだが、展示希望者の位置づけや内容のすり合わせの方法はどうなのか、との質問に対しては、共催の形となり、内容に問題がないかを検討しながら相談していくということである。

「リビングルーム」の発想は面白いが、そのことの広報ツールはあるのか、との質問に対しては、課題が多いという。公園利用者が立ち寄った時に気づいてもらえるのを期待しているとのことだが、利用者に訴える公園内の看板設置も進んでいないとのことである。

館内見学（山口真有香氏）

建物は、最終的に増築はせず、部分的な施設改修を行った。

エントランスは、以前あった生け垣を撤去して奥まで見通せるようにした結果、開放的な雰囲気になった。外から覗いて興味を持って入っていただきやすいことを意識した。飲食も可能だが、ＩＰＭの観点からゴミ箱は特定の場所に限定し、歩行虫観察用のトラップも増やした。ショップ運営と清掃、受付・監視はそれぞれ別業者に委託している。館内いろいろな場所にワゴンを配置し、チラシやポスターを置いているが、その補充はショップの委託業者が担当している。中庭に面するガラスに、サポーター名が掲示されていた。

「ラボ」の前で説明する山口氏

展示室で改修した部分は、照明（ＬＥＤ化）・天井・床と壁面クロス。以前の壁面ケースは反射がきつかったが、ガラスの表裏に低反射フィルムを貼ると、軽減された。ただ、フィルムは汚れに弱く、細かい傷がつきやすい。またフィルム表面に汚れがつくと取れにくくなるので、注意が必要となる。ＬＥＤ照明は同じ照度でも明るく見え、微調整が可能な点はよいが、逆に最後の調整につい時間をかけてしまう。ケース壁面のクロスは、部屋により日本美術仕様・現代美術仕様などと使い分けた。企画展示を行う展示室３は、床をカーペットからフローリングに替えた。以前床のコンセントが少なく困っていた部屋は、改修の機会に数を増やした。

外部連携の場であるラボは、以前は図録・書籍などを置くレファレンスルームだった。今は展示など多目的の使用が可能で、置いてある台などは使用可だが、展示ケースなどはなく、監視員も置いていない。販売を行いたい場合は、ここではなくロビーの貸しスペースで行ってもらえるようになっている。

２階のキッズスペースは、コロナでしばらく閉めていた。基本的に大人だけの利用は不可。不審者対策としては、監視員に定期的に見回ってもらっている。

情報交換会

県立美術館の山口氏を中心に、講演と館内見学を踏まえて、これからの博物館・美術館が目指す姿について、意見が交わされた。

山口氏は、休館中、リニューアルにかけられた時間は少なかったものの、新館長のもと多くの方に気軽に来てもらえるよう努めてきた。以前は優雅な雰囲気の大人向けの館だったが、開館後は家族連れの

情報交換会のようす

方が増えたと実感している。今では、展示が変わるたびに子供向けのワークシートを教育普及の担当者が作って置いており、お子さんに好評という。安土城考古博物館の髙木は、自館での子供向けのキャラクターを用いた解説パネルの例を出し、子供向けといいながら大人もそれで楽しんでいると紹介した。琵琶湖博物館の亀田氏は、公園の中にある立ち寄りスポットとしての県美と、目的地となる琵琶博の立地の違いを実感するとし、現在開催中の蝶展を紹介された。展示の中で「推し蝶」ランキングを行い、フェイスブックなどでＰＲを工夫しているという。これを受けて山口氏は、自然科学の展示と比較して、美術はどうしても子供にワイワイと楽しんでもらいにくいので、逆に琵琶博がうらやましいと応答。子供は「こういう美術作品が好きだろう」とねらって準備をすると外れることもあると、対応の難しさを語られた。甲賀市の駒井氏は、甲南ふれあいの館で子供向けの取り組みをしているものの、利用している民具で収蔵庫がいっぱいになる状況であること。ケーブルテレビで紹介された「昔のくらし」のコーナーを見た子供が来館したり、小学校の先生が授業で活用しているなどと、民俗資料の活用例を話された。県立美術館同様に利用年齢層が高いとする彦根城博物館の堀部氏は、今年から子供向けのクイズラリーを始めた例を紹介。展示室を回りながら問題を解くもので、景品シールを渡しているが、アンケートの結果も良好とのこと。静かな雰囲気の館なので子供が走り回ることを危惧していたが、一生懸命解いているので、あまり問題にはなっていないそうである。

軽食も取れるように変更したミュージアムショップについて、山口氏は、以前のレストランを懐かしむ声もあったが、結局は今の形になった。イベント等でお酒を扱う案も出たが、作品に事故があってはならないので止めたとのこと。彦根城博物館の髙木氏は、改修でショップが魅力的になったと評価。運営形態や商品のセレクト方法を質問した。回答は、民間の１社に、ロビー周辺の管理（ポスター・チラシ配架、飲食ゴミの回収等）を一括で委託しており、セレクトも業者で行うが、館として扱って欲しいもの（小倉遊亀や志村ふくみ等）は希望を伝えているという。オリジナルグッズは収益を出すのが難しいため、再開館後はほとんど出せていないこと、展覧会ごとの関連グッズも業者がセレクトしていること、図録は館から委託して販売してもらっていることなどが説明された。

各館の参加者は、立地やテーマ・展示品の傾向・来館者層などさまざまであるが、それぞれの立場で考え取り組んでいること、悩んでいることなどの意見が交わされた。自館では不利と思っている条件が、逆に他館ではうらやむべき状況と受け止められているなど、一筋縄ではいかない博物館のあり方を、改めて考えさせられる会となった。

（研修委員･滋賀県立安土城考古博物館　髙木 叙子）

【編集後記】

滋賀県博物館協議会は昨年40周年の節目の年を迎え、記念事業としてその歩みを振り返る鼎談が行われました。戦後から現在までを振りかえり総括する良い機会となり、ひとつの区切りと感じました。

令和に入り琵琶湖博物館、滋賀県立美術館のリニューアルが行われ、新しい琵琶湖文化館の計画が進む中、博物館法が改正され、美術館・博物館に課せられる役割もアップデートされています。県博協としては、こうした新しい動向や情報の内部への広報が、ますます重要となって来るように思います。

本年は2020年春から始まったコロナ禍にもようやく終わりが見え始めました。次の45周年、50周年を見据え、加盟館が一丸となって進めるお手伝いができればと思います。

（広報委員・ＭＩＨＯ ＭＵＳＥＵＭ　桑原 康郎）

しが県博協だより　第35号

令和５年（2023年）　６月23日発行

編集・発行　滋賀県博物館協議会

〒525-0034　草津市草津３丁目10－４

草津市立草津宿街道交流館内

TEL 077-567-0030

URL https://sam.shiga.jp/

令和５年度滋賀県博物館協議会　加盟館名簿

2023 年 6 月 23 日現在

会　員　館　名	郵便番号	住所	TEL	FAX
近江神宮時計館宝物館	520-0015	大津市神宮町 1-1	077-522-3725	077-522-3860
大津市歴史博物館	520-0037	大津市御陵町 2-2	077-521-2100	077-521-2666
大津絵美術館	520-0036	大津市園城寺町 33 番地　総本山円満院門跡	077-522-3690	077-522-3150
長等創作展示館・三橋節子美術館	520-0035	大津市小関町 1-1	077-523-5101	077-523-5101
大津祭曳山展示館	520-0043	大津市中央 1-2-27	077-521-1013	077-521-1013
滋賀県立琵琶湖文化館	520-0806	大津市打出浜地先	077-522-8179	077-522-9634
渡来人歴史館	520-0051	大津市梅林 2-4-6	077-525-3030	077-525-3450
公益財団法人　膳所焼美術館	520-0837	大津市中庄 1-22-28	077-523-1118	077-523-1118
建部大社宝物殿	520-2132	大津市神領 1-16-1	077-545-0038	077-545-2438
滋賀県立美術館	520-2122	大津市瀬田南大萱町 1740-1	077-543-2111	077-543-2170
田上郷土史料館	520-2112	大津市牧 1-8-32	077-549-0369	077-549-0369
田上鉱物博物館	520-2275	大津市枝町 3-8-4	077-546-1921	077-546-1921
木下美術館	520-0016	大津市比叡平 2-28-21	077-575-1148	077-575-1148
比叡山国宝殿	520-0116	大津市坂本本町 4220	077-578-0001	077-578-0678
伊香立「香の里史料館」	520-0352	大津市伊香立下在地町 1223-1	077-598-2005	077-598-2005
大津市科学館	520-0814	大津市本丸町 6-50	077-522-1907	077-522-2297
滋賀県立琵琶湖博物館	525-0001	草津市下物町 1091	077-568-4811	077-568-4850
草津市立草津宿街道交流館	525-0034	草津市草津 3-10-4	077-567-0030	077-567-0031
守山市ほたるの森資料館	524-0051	守山市三宅町 10 市民運動公園内	077-583-9680	077-583-9680
守山市立埋蔵文化財センター	524-0212	守山市服部町 2250	077-585-4397	077-585-4397
佐川美術館	524-0102	守山市水保町北川 2891-44	077-585-7800	077-585-7810
栗東歴史民俗博物館	520-3016	栗東市小野 223-8	077-554-2733	077-554-2755
国指定重要文化財「大角家」住宅旧和中散本舗	520-3017	栗東市六地蔵 402	077-552-0971	077-552-0971
湖南市東海道石部宿歴史民俗資料館	520-3116	湖南市雨山 2-1-1	0748-77-5400	0748-77-5401
菩提寺歴史文化資料室 （菩提寺まちづくりセンター内）	520-3248	湖南市菩提寺西 4-2-12	0748-74-3471	0748-74-4005
野洲市歴史民俗博物館(銅鐸博物館)	520-2315	野洲市辻町 57-1	077-587-4410	077-587-4413
甲賀市水口歴史民俗資料館	528-0005	甲賀市水口町水口 5638	0748-62-7141	0748-63-4737
みなくち子どもの森自然館	528-0051	甲賀市水口町北内貴 10	0748-63-6712	0748-63-0466
甲賀市土山歴史民俗資料館	528-0211	甲賀市土山町北土山 2230	0748-66-1056	0748-66-1067
甲賀忍術博物館	520-3405	甲賀市甲賀町隠岐 394	0748-88-5528	0748-88-2108
甲賀市くすり学習館	520-3431	甲賀市甲賀町大原中 898-1	0748-88-8110	0748-70-3694
甲賀流忍術屋敷	520-3311	甲賀市甲南町龍法師 2331	0748-86-2179	0748-86-7505
甲賀市甲南ふれあいの館	520-3321	甲賀市甲南町葛木 925	0748-86-7551	0748-86-7551
甲賀市信楽伝統産業会館	529-1851	甲賀市信楽町長野 1203	0748-82-2345	0748-82-2551
滋賀県立陶芸の森 陶芸館	529-1804	甲賀市信楽町勅旨 2188-7	0748-83-0909	0748-83-1193
MIHO MUSEUM	529-1814	甲賀市信楽町田代桃谷 300	0748-82-3411	0748-82-3414

滋賀サファリ博物館	529-1802	甲賀市信楽町黄瀬 2854-2	0748-83-0121	0748-83-0122
かわらミュージアム	523-0821	近江八幡市多賀町 738-2	0748-33-8567	0748-33-8722
近江八幡市立資料館 （郷土資料館・歴史民俗資料館・旧西川家住宅）	523-0871	近江八幡市新町 2 丁目 22	0748-32-7048	0748-32-7051
滋賀県立安土城考古博物館	521-1311	近江八幡市安土町下豊浦 6678	0748-46-2424	0748-46-6140
近江日野商人館	529-1603	蒲生郡日野町大窪 1011	0748-52-0007	0748-52-0172
近江日野商人ふるさと館「旧山中正吉邸」	529-1628	蒲生郡日野町西大路 1264	0748-52-0008	0748-52-3850
世界凧博物館東近江大凧会館	527-0025	東近江市八日市東本町 3 番 5 号	0748-23-0081	0748-23-1860
木地屋民芸品展示資料館	527-0201	東近江市蛭谷町 176	050-5802-3313	
日登美美術館	527-0231	東近江市山上町 2068-2	0748-27-1707	0748-27-1950
東近江市近江商人博物館	529-1421	東近江市五個荘竜田町 583	0748-48-7101	0748-48-7105
観峰館	529-1421	東近江市五個荘竜田町 136	0748-48-4141	0748-48-5475
マーチャントミュージアム　教林坊別院	529-1421	東近江市五個荘竜田町 396-1	090-3055-8183	0748-46-5539
滋賀県平和祈念館	527-0157	東近江市下中野町 431 番地	0749-46-0300	0749-46-0350
愛荘町立歴史文化博物館	529-1202	愛知郡愛荘町松尾寺 878 番地	0749-37-4500	0749-37-4520
愛荘町立愛知川びんてまりの館	529-1313	愛知郡愛荘町市 1673	0749-42-4114	0749-42-8484
豊会館	529-1174	犬上郡豊郷町下枝 56	0749-35-2356	
多賀町立博物館	522-0314	犬上郡多賀町四手 976-2	0749-48-2077	0749-48-8055
ダイニックアストロパーク天究館	522-0341	犬上郡多賀町多賀 283-1	0749-48-1820	0749-48-2129
彦根城博物館	522-0061	彦根市金亀町 1-1	0749-22-6100	0749-22-6520
米原市醒井宿資料館	521-0035	米原市醒井 592	0749-54-2163	
醒井木彫美術館	521-0035	米原市醒井 95	0749-54-0842	0749-54-0842
米原市柏原宿歴史館	521-0202	米原市柏原 2101	0749-57-8020	0749-57-8020
伊吹山文化資料館	521-0314	米原市春照 77	0749-58-0252	0749-58-0252
国友鉄砲ミュージアム	526-0001	長浜市国友町 534	0749-62-1250	0749-62-1250
長浜市長浜城歴史博物館	526-0065	長浜市公園町 10-10	0749-63-4611	0749-63-4613
成田美術館	526-0056	長浜市朝日町 34-24	0749-65-0234	0749-65-0234
長浜市曳山博物館	526-0059	長浜市元浜町 14-8	0749-65-3300	0749-65-3440
冷水寺胎内仏資料館	529-0251	長浜市高月町宇根 316	0749-85-2305	090-8653-6999
湖北野鳥センター	529-0365	長浜市湖北町今西	0749-79-1289	0749-79-8022
竹生島宝厳寺宝物殿	526-0124	長浜市早崎町竹生島 1664-1	0749-63-4410	
布施美術館	529-0205	長浜市高月町唐川 339	0749-85-2363	0749-85-2363
ヤンマーミュージアム	526-0055	長浜市三和町 6-50	0749-62-8887	0749-62-8780
白谷荘歴史民俗博物館	520-1837	高島市マキノ町白谷 343	0740-27-0164	0740-27-1000
高島歴史民俗資料館	520-1111	高島市鴨 2239	0740-36-1553	0740-36-1554